

平成 26 年度

社会福祉法人

安曇野市社会福祉協議会

事業計画書



社会福祉法人 **安曇野市社会福祉協議会**

目次

社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会 26 年度事業計画書

I 理念・基本方針・ビジョン	2
II 経営環境	3
III 26 年度重点テーマ	4
IV 各課の事業計画	
1 地域福祉課	5
(1) 「支え合いのかたちをつくる」事業	6
(2) 「お互いのふれあいを広げる」事業	12
(3) 「個を支える」事業	18
(4) 「支える人を支える」事業	29
(5) 地域福祉事業の自主財源の確保	36
2 介護・事業課	37
(1) 高齢者支援事業	38
(2) 障がい者支援事業	43
(3) その他の事業	50
3 総務課	54
(1) 人事	56
(2) 財務	59
(3) 情報マネジネント	60
(4) リスクマネジメント	61
(5) その他	62

I 経営理念/基本方針/ビジョン

経営理念

支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野

基本方針

- 1 私たちは、住民の声に耳を傾け、時代とニーズに即した効果的な事業を展開します。
- 2 私たちは、常に住民の立場に立ち、その人権を尊重します。
- 3 私たちは、多くの諸機関・諸団体と連携・協働し、広域的なネットワークを構築します。
- 4 私たちは、専門職としての自覚と責任を持ち、常に資質の向上に努めます。
- 5 私たちは、開かれた組織づくりと健全な経営に努め、組織の基盤強化を図ります。

ビジョン

地域福祉課	住民一人ひとりが主体となり、「子どもからお年寄りまで誰もが安心して暮らせるまちづくり」に取り組むしくみをつくり、次世代につなげます。
介護・事業課	どんな病気や障がいがあっても、できることを活かし、住み慣れた地域で自律した暮らしが営めるような支援の環境をつくります。
総務課	全ての職員が理念の実現に向けて健康的に、安心して、やりがいを感じながら、互いに高め合い、気持ちよく働ける組織をつくります。

◆スローガン

思いやりの心を大切に、ずくませ・知恵だせ・元気だせ

II 経営環境 (主なものを1つ)

地域福祉課

外部環境	生活困窮者自立支援法の成立 (H25.12) 生活保護に至る前段階において自立支援策の強化を図るため、生活困窮者に対し、自立相談支援事業の実施、住居確保給付金の支給その他の支援を行うための法律が成立し、当会としても積極的にかかわることが求められています。
内部環境	児童館全9館の運営2年目を迎えるにあたって 全9館の指定管理開始から2年目を迎えるにあたり、運営基盤の強化及びサービスの更なる向上が必要です。具体的には、業務の標準化及び事業評価の導入や、アンケート調査結果等に基づいて長期休業期間中の児童クラブ時間延長等を実施していく計画です。

介護・事業課

外部環境	介護保険制度の見直し 予防給付のうち通所介護と訪問介護は平成27年度より段階的に地域支援事業に移行されます。社協としても地域の力を活かした効果的かつ効率的な介護予防及び生活支援事業の方向性を検討します。
内部環境	経営の安定化に向けて 介護保険法改正等により収益率が悪化しています。サービス内容の見直しと営業活動による利用数の増加と収益構造の見直しを行います。また黒字転換できていない新規事業について今後の方向性を再検討します。

総務課

外部環境	労働契約法改正 (H24.8 公布) 特に有期契約労働者と無期契約労働者間の「不合理な労働条件の禁止」については、当会の継続検討課題である総合職(無期雇用)と専門職(有期雇用)のあり方を含め、法人組織・人事制度の見直しと併せて検討し、方向性を定めます。
内部環境	多角化・拡大化戦略の見直し 平成26年2月現在で、職員数は520名 事業所数33か所となり、直近の3年間で職員数は93名、事業所数は9か所増えました。長期計画策定の中で、経営環境等を鑑み、21年度から展開してきた多角化・拡大化戦略を見直します。

Ⅲ 平成 26 年度の重点テーマ

法人全体

「将来構想と10カ年戦略」を策定します。

【地域福祉課】 ▶▶ 地域福祉活動計画(第Ⅱ期)を推進します。

「支え合いのかたちをつくる」事業	地区社協機能の充実を支援します。
「お互いのふれあいを広げる」事業	住民がつくるふれあいの場「いきいきサロン」の拡がりを支援します。
「個を支える」事業	社協の「総合相談支援窓口」を普及させます。
「支える人を支える」事業	学校と地域が連携し、互いの福祉学習の場を拡げます。

【介護・事業課】 ▶▶ 地域包括ケアシステムの構築を推進させます。

高齢者支援事業	経営を安定化させます。
障がい者支援事業	「ま・めぞん」を軌道に乗せます。
その他	地域福祉課と協働で、「介護予防・生活支援事業」の社協プランを提案します。

【総務課】 ▶▶ 法人組織と人事制度の見直しをします。

人事	人材育成システムをスタートし、就業規則を見直します。
財務	新会計基準への移行準備を完了します。
情報マネジメント	社協ホームページのあり方を検討します。
リスクマネジメント	「労働安全衛生マネジメントシステム」を推進させます。

IV 各課の事業計画

地域福祉課

25年度実績の内容は、平成26年2月末現在のものです。

わたしたちの「地域福祉活動計画」は、いよいよ第2期(4年目)に入ります。

ここが、肝心要です！



【支え合いのかたちをつくる】事業

日常生活を営む小さな生活圏域の中にこそ、日頃の困りごとに「気づき」「共に考え」「お互いに助け合える」関係が必要ではないでしょうか。

【支え合いのかたちをつくる】事業は、支部社協及び地区社協が中心となり、「地域福祉活動計画」に基づいた活動を住民が主体となって展開しています。

社協は黒子となってこれらの活動を支援していきます。



地域福祉課	【支え合いのかたちをつくる】事業
事業名	地域福祉活動計画推進事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)

目的と概要 「地域福祉活動計画」は、「支え合い、誰もが安心して暮らせる福祉のまち安曇野」をつくっていくために何をすれば良いのかを、地域の住民が主体となって策定した地域づくりの「ガイドブック」です。当事業の目的は、この活動計画を広く市民に普及させるとともに、計画が「絵に描いた餅」にならぬよう、活動を継続的に支援していくことです。具体的には、活動計画の「見守り委員会」を中心に計画の進み具合を把握し、新たな生活課題への対応や次期の計画策定に向けた取り組み等を行います。

(主なものを1つ)

25年度の目標	活動計画の「見守り・点検・振り返り」と「第2期計画策定作業」を並行して行います。
25年度の実績	「見守り委員会」を中心に「見守り・点検・振り返り」を行い、並行して「第2期計画策定委員会」を開催し、「第2期計画策定作業」を実施しました。
主な成果	「第1期見守り委員会」が十分に機能を果たしたことにより、「第2期策定委員会」における計画策定作業へとスムーズに移行できました。
主な課題	地域共通の「重点計画」を優先して取り組むことができた反面、各地域に固有の課題に対する取り組みが十分にできませんでした。
26年度の目標	「第2期地域福祉活動計画」のスタート年として、第1期計画の中で取り組むことができなかった課題について優先的に取り組みます。
目標達成の方法	「第2期地域福祉活動計画進行見守り委員会」を立ち上げ、意見交換及び情報共有等の機会を設けます。

地域福祉課	【支え合いのかたちをつくる】事業
事業名	地区社協・支部社協活動の支援事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)

目的と概要 地区社協・支部社協は、小さな生活圏域で「支え合いのかたちをつくる」ことを目的に、「地域福祉活動計画」に基づいて活動を展開しています。活動は地域の特性や実状に合わせ、試行錯誤を重ねながら様々な形で行われますが、活動を継続的に推進していくためには、各地域が積極的に交流し、互いの課題やノウハウを共有して活動を「互いに支え合う」ことが重要です。社協は合同会議・研修会・交流会等を通し、地区社協・支部社協の活動を支援していきます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	5 地域相互の交流・情報交換・課題解決の機会及び活動を効果的に推進するためのきっかけをつくります。
25年度の実績	「支部運営会」を2ヶ月に1回、「研修会」は年2回(7月、11月)開催しました。
主な成果	「支部運営会」では5地域の一体感が芽生え、「研修会」では、他市の実践発表が、活動の展開をイメージする上で良い刺激となりました。
主な課題	地区社協・支部社協本来の目的や役割についての理解がまちまちです。
26年度の目標	地区社協・支部社協本来の目的や役割を役員間で共有し、5地域の一体感・連帯感を育てます。
目標達成の方法	「支部運営会」の定期開催(2ヶ月に1回)及び「研修会」の開催を継続します。

地域福祉課	【支え合いのかたちをつくる】事業
事業名	安曇野市社協福祉員の組織化
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)

目的と概要 地域住民の皆さんが抱える「生活課題」を、相談窓口に橋渡しをする「つなぎ役」として期待されているのが「安曇野市社協福祉員」です。地域の皆さんからは、この福祉員活動について「荷が重い」「隣組で孤独死があったらどうしよう」などと心配する声も聞かれますが、『向こう三軒両隣』の関係の中で「自然で」「緩やかな」つながりをつくるのが福祉員活動の目的です。社協は安曇野市のすべての小地域において、福祉員活動が根付いていくことを支援していきます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	福祉員の役割を住民の皆さんに理解していただきます。
25年度の実績	隣組長等を対象に福祉員についての説明会及び研修会を開催しました。
主な成果	福祉員の役割と活動について、概ね良好な理解を得られたものと感じています。
主な課題	福祉員の「負担感」や「不安」を払拭できるような取り組みも必要です。
26年度の目標	住民の皆さんに、福祉員の役割と目的についての正しい理解を広めます。
目標達成の方法	地区の役員さんが交代した地域を重点に、地域毎の説明会や研修会を開催します。

地域福祉課	【支え合いのかたちをつくる】事業
事業名	地域福祉の活動拠点づくり事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業・地域福祉事業/(補助金・受託金・会費)

目的と概要 社協の各支所は「総合相談の場」、「地域の課題解決の場」である他にも、地域の福祉ニーズに対応できる「しくみをつくる場」になることを目的としています。併せて、老若男女を問わずに一般住民、ボランティア、各種福祉団体等の皆さんの「出会い・交流の場」、「情報の交換と共有の場」、そして地域福祉に係る「情報発信・受信の場」になることも目指しています。つまり、社協の各支所を「支え合い 誰もが安心して暮らせる福祉のまち安曇野」の実現に向けた住民の「活動拠点」として位置づけます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	社協各支所の存在を、住民の皆さんに知っていただくことに努めます。
25年度の実績	来館者は24年度実績及び25年度目標を上回りました。
主な成果	地域福祉のイベント等を通じた「出会い・交流」の場としての拡がりが見られました。
主な課題	社協各支所を地域福祉の活動拠点として、その機能を利用していただけるように働きかける必要があります。
26年度の目標	社協各支所が小地域福祉活動の拠点となるべく、その役割と機能を知っていただく取り組みを継続し、特にその機能強化を優先して取り組みます。
目標達成の方法	機能強化の一環として、小地域福祉活動に必要な情報を支所に揃え、活動の相談に的確なアドバイスができるよう職員のスキルアップを図ります。

地域福祉課	【ささえ合いのかたちをつくる】事業
事業名	各支所（地域福祉の活動拠点）の重点テーマ
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業・地域福祉事業・共同募金事業

支所名 特に力を入れて取り組みたい活動（主なものを1つ）

豊科支所	安曇野市社協福祉員の役割についての理解を地域の皆さんに広めます。
穂高支所	総合相談窓口の存在を地域住民に十分に周知します。
三郷支所	ふれあい・いきいきサロンの目的や効果を住民の皆さんに広め、サロン活動を更に推進します。
堀金支所	安曇野市社協福祉員の役割を地域住民の皆さんに広く理解していただきます。
明科支所	各地域における地区社協活動の継続を支援するとともに、地域の皆さんの地区社協活動への理解と協力を求め、積極的に地域へ出向きます。

【お互いのふれあいを広げる】事業

赤ちゃん、若者、お年寄り、労働者、子ども、学生、心身に障がいのある人、主婦、就活中の人、心を病む人、介護が必要な人、元気なお年寄り、外になかなか出られない人・・・

わたしたちの地域には様々な人が一緒に暮らしています。こうした人たちがお互いを理解することは、「誰もが安心して暮らせる福祉のまち」をつくっていくための土台になります。

【お互いのふれあいを広げる】事業では、外出・交流・楽しい活動等をとおして、お互いがふれあう機会を設け、【支え合いのかたちをつくる】ための土壌を醸成していきます。



地域福祉課	【お互いのふれあいを広げる】事業
事業名	地域住民グループ支援事業（ふれあい いきいきサロン）
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自・補助（補助金・共募・会費）

目的と概要 「ふれあい いきいきサロン」活動は、地区社協活動の一環として地域の公民館等を会場に開催されています。ここでは、住民同士のふれあい・支え合いの場であるだけでなく、介護予防、生きがいづくり、生活課題への気づき、さらには小地域において「支え合いのかたちをつくる」リーダーの養成等、様々な機能が期待される活動です。当事業はサロン活動の企画・運営への協力をしながら、あくまで住民の自主的・自律的な活動として発展していけるように支援します。

（主なものを1つ）

25年度の目標	「認知症の見守り」と「地域のリーダー養成」を共通のテーマとし、サロン活動に組み入れます。
25年度の実績	10 地区のサロンで「認知症の見守り」をテーマに取り上げ、リーダー養成は「地域の世話やきさん講座」として全地区合同で2 回行いました。
主な成果	「地域の世話やきさん講座」は、開催回数及び参加者（合計 40 名）ともに目標を上回りました。
主な課題	「地域の世話やきさん講座」の参加者が自分の地域のリーダーとして、活躍できるようなしくみが必要です。
26年度の目標	「地域の世話やきさん」が中心になってサロンを企画・運営していけるような仕組みをつくります。
目標達成の方法	「地域の世話やきさん」の養成講座のフォローとして、スキルアップ講座を開催します。

地域福祉課	【お互いのふれあいを広げる】事業
事業名	ふれあいバスの旅事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/補助(市補助金・共募・会費)

目的と概要 市内にお住まいの高齢者、心身に障がいのある方、家族介護者及びボランティア等と一緒に参加する恒例の日帰りバス旅行です。日頃は旅行に行くことが困難な方でも、安心して旅を楽しんでいただくとともに、参加者がお互いに交流し、当事者同士のつながりのきっかけをつくることが目的です。参加費は概ね 3,500 円程度で、毎年のアンケート結果を参考にして社協職員がツアーを企画し、毎年 500 名以上が参加して好評をいただいております。

(主なものを 1 つ)

25 年度の目標	目標参加者数 500 名以上で、その内「初めての参加者」が 5% 以上をめざします。
25 年度の実績	新潟県上越水族館をメイン目的地とし、地域毎に出発日を 3 回に分けて実施しました。
主な成果	参加者数は 524 名で、その内初めての参加が 58 名(11%)でした。
主な課題	無理なく、楽しい目的地の選定に苦労しています。
26 年度の目標	参加者の満足度アップ(参加者アンケートで“良かった”の回答が 75% 以上)をめざします。
目標達成の方法	アンケート結果を踏まえて目的地(移動時間等)及び食事の内容等を検討し、ボランティアさんとのふれあいの機会も工夫します。

地域福祉課	【お互いのふれあいを広げる】事業
事業名	ひとり暮らしの集い事業
経理区分	一般会計/共同募金事業/高齢者(共募)

目的と概要 65歳以上のひとり暮らしの方を対象に、孤立感の解消、生活課題の発見と解決、相談窓口の紹介、介護予防、さらには、お互いの支え合いの機会になることを目的として、季節行事や楽しい催し等を通して交流する事業です。社協の支所が主催し、福祉センターや近隣施設を利用して実施します。当事業が「ふれあいいいききサロン」等、地域活動への参加や日常的な交流へのきっかけになることを期待しています。

(主なものを1つ)

25年度の目標	合計で年4回、150名以上の参加をめざします。
25年度の実績	年4回実施し、84名の参加がありました。
主な成果	社協の総合相談窓口、いきいきサロン、安心コール、おはなし相手ボランティア等の情報提供を併せて行い、参加者から関心が寄せられました。
主な課題	ひとり暮らし高齢者の所在をリアルタイムに把握することが困難になっています。
26年度の目標	潜在的な対象者が参加できるチャンスを増やします。
目標達成の方法	民生委員さん、安心コールボランティア、ケアマネージャー等の協力により広報及びお誘いの範囲を広げます。

地域福祉課	【お互いのふれあいを広げる】事業
事業名	社会福祉大会の開催
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/補助(会費・市補助金・共募)

目的と概要 福祉関連の講演会及び学校・地域における福祉活動実践の発表等を通して、自分の地域の中にある「生活課題」を意識し、地域における「支え合い」の大切さに気づくためのきっかけをつくります。そして「支え合い 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」をつくる活動への参加を誘います。大勢の市民が福祉をテーマに集う「ふれあい」の場ですが、世代を超えた福祉学習、情報発信、社会参加及び表彰の場でもあります。

(主なものを1つ)

25年度の目標	(小学生)防災アイデアコンテスト応募数 300 点以上を目指します。
25年度の実績	応募数は 138 点に止まりました。
主な成果	コンテスト表彰により、小学生及びその保護者の参加が増えました。
主な課題	会場及び運営方法(市との共催)についての検討が必要です。
26年度の目標	新しい運営方法について早期に決定します。
目標達成の方法	会場選定及び安曇野市との協議を 25 年度中から開始します。

地域福祉課	【お互いのふれあいを広げる】事業
事業名	その他の【お互いのふれあいを広げる】事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業・共同募金事業

支所名 その他の【お互いのふれあいを広げる】事業

本所	<ul style="list-style-type: none"> ・希望の旅事業： 障がい者及びその家族を対象とした日帰りバス旅行です。26年度の目的地はアンケート結果をもとに検討中です。
豊科支所	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉バザー事業： 豊科ふれあいホールで7月に開催予定です。 ・陶芸館の運営事業： 朗人大学等でも活用します。
穂高支所	<ul style="list-style-type: none"> ・わんぱく広場&ふれあい祭り： 8月に穂高地区の児童館まつりと共同で開催します。
三郷支所	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいマーケット&福祉まつり： 実行委員会を更に「部門担当」に細分化し、実行委員の皆さんの持つアイデアがよりダイレクトに反映される仕組みにしていきます。
堀金支所	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい祭り：7月に開催を予定しています。実行委員会が主催し、支部社協と支所も協働します。 ・ひとり暮らし配食サービス：「まめの会」の手作り弁当を隔月でお届けします。
明科支所	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉まつり：10月に開催を予定しています。昨年同様に地区社協の活動を紹介するポスターを展示し、活動を相互に知り合う機会にします。 ・おせち料理の配食事業：ひとり暮らし高齢者や障がい者にボランティア特製のおせち料理を民生委員さんがお届けします。 ・子育てサロン事業：地元の皆さんが地元の食材でおやつを作ります。



【個を支える】事業

わたしたちが抱える「困りごと」「悩みごと」の中には、隣近所の助け合いやボランティア活動だけでは対応が困難なものも少なくありません。

【個を支える】事業は、このような生活課題に対して専門的な福祉サービスや制度的・組織的なサービスによって応えていこうとするものです。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	総合相談支援体制の構築
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/補助(市補助金)

目的と概要 総合相談支援体制の構築とは、地域住民の日常の暮らしの中にある様々な「困りごと」や「悩みごと」を解決していくために、あらゆる相談をワンストップで受け止め、相談者に寄り添いながら共に考え、解決につなげる仕組みをつくることです。安曇野市と連携し、社協の各支所が窓口となって、課題解決に必要なネットワークを構築しながら、地域住民との協働によって一つひとつの生活課題に対応していきます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	職員の「相談援助技術」を向上させます。
25年度の実績	職員スキルアップ研修を、地域福祉担当者会議と併せて実施しました。
主な成果	研修では困難事例の検討を通して、実践的なアプローチの学びができました。
主な課題	「総合相談支援」窓口の存在はまだまだ知られていません。
26年度の目標	「総合相談支援」窓口を広く住民に広報します。
目標達成の方法	社協広報誌「あづみん」や社協ホームページを利用して広報します。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	児童館管理運営事業
経理区分	一般会計/地域福祉事業/児童館管理運営事業(市受託金)

目的と概要 児童館事業には5つの柱として、①専門の支援員が保護者の相談に対応する「子育て相談事業」、②就園児親子を対象としたイベントを行う「子育て支援事業」、③地域の住民とともに異世代間交流等を図る「地域ふれあい事業」、④小学生以上を対象に、遊びを通して自主性、社会性及び豊かな情緒を育むことを目的とした「青少年育成事業」、そして⑤放課後児童クラブです。豊科3館、穂高3館に25年度から三郷、堀金、明科の各1館を加えた全9館を安曇野市から受託して運営しています。

(主なものを1つ)

25年度の目標	新体制でスタートし、9館の運営基盤を確立します。
25年度の実績	研修会及び会議を定期的に開催し、「9館のチーム意識」を育むとともに、情報共有、運営方針の確認及び共通課題の解決に努めました。
主な成果	新体制の主任が中心となって児童館運営のスローガン及び基本方針を策定し、職員間で共有することができました。
主な課題	運営基盤の強化として、業務の標準化及び事業評価の仕組みづくりが必要です。
26年度の目標	事業評価シートを作成し、9館共通で導入・試行します。
目標達成の方法	先進事業所を参考にして、事業評価シート(社協版)を本所で作成し、研修会を経て導入します。10月には上半期評価を実施します。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	ファミリーサポート事業
経理区分	一般会計/地域福祉事業/ファミリーサポート事業(市受託金)

目的と概要 社協の「ファミリーサポートセンター(豊科)」が事務局となり、利用会員(子育てに手助けを必要としている会員)と協力会員(手助けをする会員)とをつなぎ、子育ての「支え合い活動」を推進します。対象は0歳から12歳までの子どもを持つ市民で、保育園・小学校の送迎や親の外出時の託児等を行う「ファミリーサポート」と、子どもの保育園・小学校での急な発病や、親の急な残業の際に送迎や託児を行う「緊急サポート」があります。料金は通常1時間600円(日・祝祭日は700円)です。

(主なものを1つ)

25年度の目標	協力会員(子育ての手助けをする会員)のスキルアップを図ります。
25年度の実績	「協力会員スキルアップ講座」を2回開催しました。
主な成果	講座では、子どもを預かる上での注意事項や心構えが再認識できました。
主な課題	少子化進行の一方で、核家族化や共働き世帯は増加しており、潜在的なニーズが少なくないと推測します。
26年度の目標	潜在的なニーズの掘り起こしを行い、利用会員を増やします。
目標達成の方法	児童館や保育園への広報とともに、利用会員の登録を豊科支所のファミリーサポートセンター以外の社協支所でも実施できるようにします。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	地域交通ネットワーク事業（デマンド交通）
経理区分	公益事業特別会計/地域交通ネットワーク事業/(市受託金)

目的と概要 特に「交通弱者」の足を確保して外出を支援することが目的ですが、市内のどなたでも利用できます。当事業には、①予約を入れていただいたご自宅や目的地を、乗り合わせながら順次回る「デマンド交通」、②朝夕の通勤通学時間帯に合わせて JR の豊科駅-田沢駅間及び穂高駅-明科駅間を運行する「定時定路線」があります。平成 19 年から安曇野市の委託を受けて社協が配車管理(オペレーター業務)をしています。利用料金は片道 300 円(障害者 100 円)です。

(主なものを 1 つ)

25 年度の目標	1 日あたりの平均利用件数 420 件を目指します。
25 年度の実績	上半期の平均利用件数は 367 件でした。
主な成果	6 月に運行開始(H19 年)からの延べ利用数が 50 万人を突破しました。
主な課題	ドライバー(タクシー会社職員)の態度に関する苦情が絶えません。
26 年度の目標	ドライバーの接遇を改善します。
目標達成の方法	ドライバーを対象とした接遇改善の研修会を継続します。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	地域包括支援センター運営事業
経理区分	一般会計/地域包括支援センター事業/(市受託金・介護保険)

目的と概要 「地域包括支援センター」は高齢者が住み慣れた地域で、できるだけ自立した生活を営むために、必要なサービスを必要なタイミングで継続的に利用できるしくみ・・・「地域包括ケアシステム」を構築するための中核的存在として、高齢者の①実態把握・相談対応・サービスの利用援助、③関係機関のネットワーク構築、④権利擁護活動、⑤ケアマネジャーの支援及び⑥介護予防プランの委託・作成等を行います。平成24年度に「南部」、25年度に「北部」の2か所のセンターを安曇野市から受託しています。

(主なものを1つ)

25年度の目標	南部:実態把握による潜在的ニーズの掘り起こしをします。 北部:受託1年目として運営基盤を確立します。
25年度の実績	南部:実態把握の件数は73件(24年度比+31件)でした。 北部:チームを再編成しました。
主な成果	南部:目標を達成できました。 北部:チーム再編成により、下半期から新体制をスタートしました。
主な課題	介護予防・生活支援事業(安曇野市)についての情報及び動向把握と地域包括支援センターとしての対応策が必要となります。
26年度の目標	介護予防・生活支援事業に係る社協プラン策定に協力します。
目標達成の方法	国の示す制度動向への感度を高くし、介護予防・生活支援事業プロジェクトチーム(社協内)に参画します。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	住民参加型有償在宅福祉サービス事業 (しあわせ・あづみん)
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)

目的と概要 「しあわせ・あづみん」は、公的・制度的なサービスでは解決できない生活課題を「住民同士が助け合って解決する活動」です。「自分のできることで困っている人の役に立ちたい」というボランティアの気持を持った方が、生活の中で「困りごと」のある方からの依頼に手をお貸しするしくみです。「お互いさま」の気持で地域のたくさんの方がつながっていくことを目的としています。現在は社協の各支所で事務局を担っています。

(主なものを1つ)

25年度の目標	支援会員を増やし、「しあわせ・あづみん」を市内全域化に普及させます。
25年度の実績	支援会員養成講座を1回、全市共通で開催しました。
主な成果	講座開催により支援会員が46名増えました。(25年度目標達成)
主な課題	調査の結果、草刈り、草取り、雪かき等の「労力提供」に類するニーズへの対応が不十分であることがわかりました。
26年度の目標	「労力提供ニーズへの対応」及び「介護予防・生活支援事業との連携」をテーマに、今後の「しあわせ・あづみん」のあり方を検討します。
目標達成の方法	同様のサービスを提供している他事業所との意見交換を行うとともに、「介護予防・生活支援事業」に係る社協内のプロジェクトチームに参画します。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	生活福祉資金貸付事業（本所）
経理区分	一般会計/地域福祉事業/生活福祉資金貸付事業(県社協受託金)

目的と概要 長野県社協の受託事業で、低所得者、障がい者及び高齢者を対象に資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、その経済的自立及び生活意欲の向上を図り、住み慣れた地域で安定した自立生活が送れるように支援することが目的です。安曇野市における貸付件数の内、「教育支援資金」及び「緊急小口資金」が約半数を占めています。仕事に就いていない相談者については、就労に向けた「つなぎ役」としての支援も行います。

(主なものを1つ)

25年度の目標	滞納状況の悪化防止策を講じます。
25年度の実績	県社協相談員との同行訪問及び民生児童委員への見守り活動強化の依頼を行いました。
主な成果	民生児童委員役員会では当事業への協力についての了解が得られました。同行訪問による一定の効果もみられました。
主な課題	相談の入り口(インテーク)におけるアセスメント及び支援には極めて高度な技術が求められるため、長期的な人材育成が必要です。
26年度の目標	「生活困窮者自立支援事業」と積極的に連携します。
目標達成の方法	安曇野市と情報交換及び協議を重ね、連携のあり方を検討します。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	日常生活自立支援事業
経理区分	一般会計/地域福祉事業/日常生活自立支援事業(市補助金・県社協受託金)

目的と概要	認知症高齢者、知的障害者及び精神障害者等、判断能力が不十分な方の権利を擁護し、必要なサービスを適切に利用して自立した地域生活が営めるよう、福祉サービスの利用援助を行うことが目的です。当事業は権利擁護分野のケースワークにおける中心的な事業であり、様々な社会保障制度への「つなぎ役」、さらには成年後見制度を補完するという役割を果たしながら権利擁護ニーズを抱えた相談者の課題解決を進めていきます。
-------	---

(主なものを1つ)

25年度の目標	関係機関に当事業の目的及び支援内容について、正しく理解をしていただきます。
25年度の実績	特に居宅介護支援事業所のケアマネージャーを対象に当事業の説明を重ねました。
主な成果	当事業への理解が深まり、ケースの依頼内容に良好な変化がみられました。
主な課題	当事業の専門員が担当できるケースに限りがあり、ニーズの全てには対応できなくなっています。

26年度の目標	専門員の増員とスキルアップにより、運営体制を強化します。
目標達成の方法	運営体制強化に向けた現状分析及び今後の方向性について、25年度中から安曇野市と協議を開始しています。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	心配ごと相談事業
経理区分	一般会計/地域福祉事業/相談事業(市受託金)

目的と概要 「心配ごと・行政相談」は、住民が抱える様々な心配ごとに対して、民生児童委員、人権擁護委員又は行政相談員等が面談し、解決につなげていく事業で、社協各支所毎に月2回(1回目が心配ごと、2回目が行政相談)開催します。また、法的措置が必要なケースについては、「無料法律相談」を支所毎に月1回別途開催し、司法書士が対応しています。社協の職員は相談記録等を担当する他、必要に応じて社協事業又は地区社協活動への「つなぎ役」を務めます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	当事業を社協支所「総合相談支援の窓口担当者」の技術向上研修の場としても位置づけます。
25年度の実績	地域福祉係職員への上記主旨の意識付けを行い、各支所における相談事業に出席させました。
主な成果	ベテラン相談員の技術を直接学べる良い機会になりました。
主な課題	「心配ごと」が潜在化しないように、さらに広報を徹底する必要があります。
26年度の目標	当事業の広報を手段・範囲ともに拡大していきます。
目標達成の方法	ホームページ、社協の広報誌「あづみん」及び地区社協懇談会等で紹介します。

地域福祉課	【個を支える】事業
事業名	その他の【個を支える】事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業・地域福祉事業・共同募金事業

目的と概要

- 1 **権利擁護事業**＜一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費、市補助金)＞
高齢者及び障がい者等で「日常生活自立支援事業」に該当しない方に、必要な福祉サービスの利用援助、金銭管理及び財産保全、消費者被害の回復等の支援を行う事業です。
- 2 「安曇野市における権利擁護のあり方研究会」運営事業＜一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)＞法人後見を中心に、後見制度の受け皿の仕組みを当市においていかに構築すべきかを、実務者、司法書士、関係団体及び行政が共同で研究する事業です。
- 3 **安心コールボランティア事業**＜一般会計/共同募金事業/共同募金(高齢者)＞
ひとり暮らし高齢者等を対象として、定期的に電話でのお話し相手になることで、安否確認及び孤立感の解消を図る事業です。
- 4 **婚活サポート事業**＜一般会計/ふれあいのまちづくり事業/独自(会費)＞
25年度までの「結婚相談事業」に登録された40歳以上及び障がい者の内、社協の継続支援が必要な方を26年度の1年間フォローします。
- 5 **災害援助金事業**＜一般会計/共同募金事業/住民全般(共募)＞
長野県共同募金会の「災害等援護金配分金要綱」に従い、見舞金を被災者に届けます。
- 6 **生活困窮者自立支援事業**
生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者の相談対応、自立支援計画の作成及び関係機関との連絡調整を行う事業です。26年度は長野県モデル事業の1つとして、長野県社協からの出向職員1名を受け入れ、安曇野市と連携して新制度施行に備える予定です。

【支える人を支える】事業

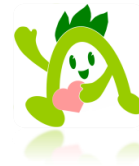
「支え合い 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」を実現するためには前記のような取り組み、すなわち

- ① 支え合いのかたちをつくる（しくみづくり）
- ② お互いのふれあいを広げる（関係づくり）
- ③ 個を支える（専門的サービスと制度づくり）

が必要ですが、これらの取り組みの推進には、

- ④ 支える人を支える（人づくりと活動支援）

ことが欠かせません。



【支える人を支える】事業では、地域福祉活動を担うボランティア等の人材を育成し、その活動を支援していきます。また、住民の地域福祉への関心を高め、地域づくりに参加するきっかけをつくっていきます。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	ボランティアセンター運営事業（本所/各支所）
経理区分	一般会計/共同募金事業/住民全般(共募)

目的と概要 ボランティアセンターは、ボランティア活動を通じて「人と人をつなぐ」ことで「地域づくり」を推進します。同センターは社協本所及び各支所にあり、専属のボランティアコーディネーターが1名ずつ配置されています。同コーディネーターの主な役割は、ボランティア活動に関する相談に応じ、「自分のできることで地域の役に立ちたい」という気持ちと、「ボランティアを必要としている人・活動」とを結びつけること(マッチング)、ボランティア活動を支援していくこと、そして、ボランティアの育成及び普及をしていくことです。

(主なものを1つ)

25年度の目標	ボランティア・地域づくり活動を推進する他組織との連携を強化します。
25年度の実績	市民活動支援センター「わの会」と協力し、市内のボランティア団体・市民活動グループ等を紹介した冊子「ボラネット」を発行しました。
主な成果	「ボラネット」発行の共同作業は、ボランティア活動に係る組織のネットワークづくりに向けた大きな一歩だったと感じています。
主な課題	有機的なネットワークの形成には、お互いの役割や特徴の理解を更に深めていく必要があります。
26年度の目標	ボランティア・市民活動に係る組織のネットワークづくりを継続・発展させます。
目標達成の方法	共通のテーマで、かつ各々のボランティア活動をPRできるようなイベント等を、協働で開催できるような企画を検討します。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	福祉学習推進事業（本所/各支所）
経理区分	一般会計/共同募金事業/住民全般(共募)

目的と概要 社協が展開する福祉学習は主に2つの種類があります。1つは、学校(小・中・高)と連携し、児童・生徒さんを対象とした「福祉のこころ」を育むための学習と、2つ目は広く地域住民を対象として、「わたしたちの地域を、わたしたちでつくっていく」ために役立つ機会を、サロン活動や地域学習会等を利用して提供するものです。両者とも「教える-教わる」関係ではなく、対象者が自ら気づき、自ら行動していくことを、社協のボランティアコーディネーターが中心となって支援していきます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	住民が認知症への理解を深め、地域で見守っていく雰囲気をつくっていきます。
25年度の実績	「認知症サポーター養成講座」を8回開催し、合計で316人がサポーターとなりました。
主な成果	専門医療機関との協働で運営ができたことが、今後の活動発展にもつながると考えます。
主な課題	地域で見守る体制づくりのためには、当養成講座を含めた事業を発展的に継続していかなければなりません。
26年度の目標	「学校」と「地域」といった2つの福祉学習を結びつけた「相互学習」を展開します。
目標達成の方法	「ふれあい いきいきサロン活動」(お互いのふれあいを広げる事業)の機会を利用した相互学習を企画し、試行します。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	サマーチャレンジボランティア事業（本所/各支所）
経理区分	一般会計/共同募金事業/児童・青少年(共募)

目的と概要 市内の小中学生を対象に、夏休みを利用して福祉活動やボランティア活動の体験をします。学校の授業や普段の生活では学べないような体験を通して、ボランティア活動への動機づけを促し、「支え合い、共に生きる」ことの大切さと楽しさを「肌」で感じてもらうことが目的です。また、学校や学年、地域といった日常の「枠」を超えて交流し、お互いのふれあいを広げていくこともねらいます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	地域の住民に運営サポーターとして参加していただき、「学校」と「地域」のつながりを強めます。
25年度の実績	「防災・災害時の助け合い」をテーマに開催し、小中学生は23名(9校)、サポーター4名が参加しました。
主な成果	サポーターには地元の高中生3名、大学生1名が参加し、異世代間のつながりや若者のリーダー学習としても成果がありました。
主な課題	参加者アンケートからは、宿泊を含めた体験を望む声が多く寄せられました。
26年度の目標	宿泊を含めたプランを試行し、成果を評価します。
目標達成の方法	学校と連携し、5月の福祉協力校会議でプランを決定できるように準備します。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	朗人大学の運営事業（本所/各支所）
経理区分	一般会計/地域福祉事業/朗人大学(市受託金)

目的と概要 60歳以上の方を対象とした朗人大学の主な目的は、①年輩者の優れた能力やご経験を広く地域づくりに役立てていただくこと、②「学生」たちが新たな知識を習得しながら健康づくり・仲間づくりを行うこと。以上の2つです。講座は教養・趣味・社会見学・芸術鑑賞等の19種類があり、月に1日ずつ(年間12日)開催します。平成23年度から「ボランティア実践講座」を新設し、「卒業」後のボランティア活動への参加を働きかけています。

(主なものを1つ)

25年度の目標	「卒業生」が地域のボランティア活動へ参加する動機づけを高めます。
25年度の実績	卒業生アンケート調査を実施し、ボランティア活動へ参加する動機づけを高める方法を探りました。
主な成果	卒業生アンケートの結果、ボランティア実践講座を通して「地域でボランティア活動をしたい」という意識が高まったことがわかりました。
主な課題	ボランティア情報を更に具体的に紹介する等、ボランティア活動に繋がり易い環境を整えていくとが必要です。
26年度の目標	地域のボランティア活動に参加する「卒業生」を増やします。
目標達成の方法	「入学者」を100名以上確保し、「ボランティア実践講座」の選択肢を増やします。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	災害ささえ合いボランティア構築事業（本所）
経理区分	一般会計/共同募金事業/住民全般(共募)

目的と概要 地震や台風等による災害が実際に発生した時、地域のつながりやボランティア活動が、とても大きな力になることを過去の災害から学びました。わたしたちには、防災や災害時の支え合いについての「関心」を持ち続け、十分に「備え」、いざという時にきちんと「行動できる」ことが求められます。当事業の目的は、このようなニーズに対応するため、安曇野市又は近隣市町村が被災した時に、わたしたちは具体的に何ができるのか、また何をすべきなのかをきちんと整理して、いざという時に備えることです。

(主なものを1つ)

25年度の目標	子どもたちやその親が「防災及び災害時の支え合い」について関心を高め、いざという時に適切な行動ができるようにします。
25年度の実績	子どもを対象とした「災害・防災アイデアコンテスト」及び親を対象とした「防災講座」を開催しました。
主な成果	アイデアコンテストは社会福祉大会運営、防災講座はファミリーサポート事業とタイアップして実施できました。
主な課題	社協内及び近隣社協間における災害時の支え合い(行動)については、まず社協内の各部所が連携し、総合的に検討することが必要です。
26年度の目標	災害時対応マニュアルの作成に着手します。
目標達成の方法	先進地域等の取り組みを学び、行政及び関係団体との連携のあり方を含めて取り組んでいきます。

地域福祉課	【支える人を支える】事業
事業名	その他の【支える人を支える】事業
経理区分	一般会計/ふれあいのまちづくり事業・地域福祉事業・共同募金事業

目的と概要

1 「ささえあいセンターにじ」の管理運営事業 <一般会計/地域福祉事業/ボランティアセンター-管理運営(市受託金)> 市の指定管理施設であり、ボランティア・市民活動の拠点です。社協のボランティアコーディネーター1名が配置され、活動に係る相談支援、連絡調整、マッチング、研修会、合同会議及び施設管理等を行います。

2 ボランティア情報誌発行事業 <一般会計/共同募金事業/住民全般(共募)> ボランティア・市民活動に係る情報を市民向けに発信し、各活動への参加や利用を促進しています。

3 福祉教育推進事業(福祉教室/ボランティア体験教室) <一般会計/共同募金事業/児童・青少年(共募)> 小学校3、4年生から中学生を対象に、身近な地域で年間を通して福祉活動やボランティアの体験をする事業です。社協のボランティアコーディネーターが地元住民と協力して運営します。

4 高校生サマーボランティアスクール事業<一般会計/共同募金事業/児童・青少年(共募)> 市内の高校に通う高校生を対象とした福祉・ボランティア体験です。「ホスト校」に選ばれた高校の生徒は、当事業の企画・運営から参加します。

5 手話奉仕員養成講座事業

<一般会計/地域福祉事業/手話奉仕員養成講座(市受託金)> 聴覚障害者を支援する人材を育成することを目的として、手話の技術習得と福祉制度等について学ぶ講座で、聴覚障害者協会が中心となって開催しています。

地域福祉課	【財源確保】
事業名	地域福祉事業における自主財源の確保
経理区分	一般会計/ふれあいの事業・地域福祉事業・共同募金事業

目的と概要 地域福祉事業を展開するための主な自主財源は①社協会費と②共同募金です。社協会費は普通会費(個人、1口1,000円)、特別会費(企業・事業所、1口5,000円)及び賛助会費であり、地区社協・支部社協活動の主な財源です。共同募金の社協への配分金は、ボランティアセンターの運営をはじめ、福祉教育、児童・青少年育成、障がい者・高齢者支援及び「お互いのふれあいを広げる事業」等、地域福祉づくりに必要な事業の財源となっています。

(主なものを1つ)

25年度の目標	社協会費合計 2,870 万円を目指します。
25年度の実績	社協会費合計は 2,961 万円で、目標を上回りました。(内訳:普通会費 2,249 万円、賛助会費 180 万円、特別会費 532 万円)
主な成果	地域説明会や福祉学習等、地域に出向いて行う事業に力を入れてきことが住民のみなさんの理解と協力を高めることにつながったと考えます。
主な課題	会費は地区社協への還元等により、地域福祉推進のために利用されますが、すべての住民の皆さんに十分な理解が得られているとはいえません。
26年度の目標	社協会費合計額は 25 年度以上を目標とします。
目標達成の方法	社協会費が使われている事業については、会費が財源であることを、広報誌や参加者への説明を通して住民にアピールしていきます

介護・事業課

25年度実績の内容は、平成26年2月末現在のものです。

地域包括ケアシステムの構築へ向けて一歩前へ！
まずは社協内のスクラムを
がっちり！



介護・事業課	高齢者支援
事業名	居宅介護支援事業/介護予防支援事業
経理区分	一般会計/居宅介護支援事業

目的と概要 要介護者及び要支援者が、必要なサービスを適切に利用できるよう、居宅介護支援専門員(ケアマネージャー)が本人及び家族の意向や心身の状況、環境等を勘案してケアプラン(又は予防プラン)を作成し、サービス事業者との連絡調整等を行うサービスです。この内、要支援者(予防給付の対象者)に対する介護予防支援事業は安曇野市からの受託事業です。

(主なものを1つ)

25年度の目標	ケアマネージャー1人ひとりのケアプランの質の向上を図ります。
25年度の実績	毎週1回開催される担当地区グループごとのケース検討会において、実際のケアプランの点検や困難事例の検討を行いました。
主な成果	困難事例をチームで検討する事により、ケアプラン作成時により多角的な視点を持つことのみでなく、担当者の精神的負担の軽減に繋がりました。
主な課題	記録・書類作成の仕方が職員ごとにばらつきがあるので、効率的かつ的確で必要十分なものとなるよう、方法や内容を統一していく必要があります。
26年度の目標	記録・書類作成の方法や内容を統一し、より適切なケアプラン作成をめざします。
目標達成の方法	記録をテーマとした研修会の開催及びチームリーダーによるケアプラン点検を実施します。

介護・事業課	高齢者支援
事業名	通所介護事業（デイサービス）
経理区分	一般会計/通所介護事業

目的と概要 介護が必要な方を自宅まで送迎し、食事(昼)、入浴、機能訓練及びレクリエーション等の日中のサービス(day-service)を提供します。家族介護者の負担を軽減するためだけではなく、利用者本人が日中を有意義に過ごすことで、デイサービスの時間に限らず、自宅における生活機能やQOLをも維持向上させることが目的です。安曇野市の指定管理である 5 事業所と、認知症対応型「ゆたかの郷」の合計 6 事業所を運営しています。

(主なものを 1 つ)

25 年度の目標	利用者が「また来たい」と思い、「帰る時間を忘れる」ようなサービスを目指します。
25 年度の実績	先進地視察や利用者の希望調査等を実施し、活動メニューの開発に取り組みました。
主な成果	職員が目標を共有して前向きに取り組めたため、すべてのデイサービスで利用者が選択できる活動メニューが増えました。
主な課題	活動メニューを更に増やし、目標を実現させるためにはボランティアの力も必要です。
26 年度の目標	利用者が選択できる活動メニューを更に拡充させ、「過ごし方」を自ら選択できる環境を整えることで利用者の満足度を高めます。
目標達成の方法	活動メニュー拡充のため、ボランティアとの関わりを強化するなどの工夫をします。

介護・事業課	高齢者支援
事業名	訪問介護事業（ホームヘルプサービス）
経理区分	一般会計/訪問介護事業

目的と概要 介護福祉士等の専門資格を有するホームヘルパーが、介護の必要な方の自宅を訪問し、排せつ、食事等の介護（身体介護）や調理、掃除等の家事（生活援助）のサービスを提供します。家族介護をカバーし、利用者本人の自立をできる限り支援することで、利用者及び家族の家庭生活を支えるとともに、介護に限らない利用者周辺の生活課題を「つかみ」、課題解決へ「つなぐ」ことにより、利用者及び家族の地域生活を支援していくことが目的です。

（主なものを1つ）

25年度の目標	サービスの品質を下げずに、利用者の経済的負担を軽減させます。
25年度の実績	特定事業所加算の算定を廃止し、その一方で加算算定の要件（サービス責任者の責務、職員教育、困難事例の受入れ等）は維持しました。
主な成果	目標を達成し、全体の利用者数は増加しました。
主な課題	利用者及び家族の地域生活を支えるために、社協内外の社会資源との連携がもっと必要です。
26年度の目標	社協内外の社会資源を把握し、関係者及び関係機関との連携を強化することにより利用者へのより良い支援につなげます。
目標達成の方法	研修会を開催して社協内外の社会資源を全体で学ぶとともに、プロジェクトチームで必要な情報を整理し、活用できる形にします。

介護・事業課	高齢者支援/障がい者支援
事業名	訪問入浴介護事業
経理区分	一般会計/訪問入浴介護事業

目的と概要 自宅浴室での入浴が困難で、かつデイサービスの利用も困難な重度の要介護者等に、自宅で安心して入浴を楽しんでいただくことが目的です。看護師及び介護福祉士等の3名が、ボイラー搭載の「訪問入浴車」で利用者の自宅を訪問し、利用者の居室内に組み立て式の浴槽を設置して、寝たままの姿勢での入浴を提供します。現在は1ヶ所の事業所(明科)から市内全域に出向いています。

(主なものを1つ)

25年度の目標	事業安定化に向けて利用者を増やします。
25年度の実績	専任の係長を配置してPR及び利用者の受入れを積極的に行いました。24年度と比較して利用者は3割強増えています。
主な成果	利用者の増加数は目標を上回りました。
主な課題	利用者数の増加に対して、職員及び訪問入浴車が不足ぎみです。
26年度の目標	職員と訪問入浴車を増やし、量・質の両面における多様な利用希望に、より極め細やかに対応します。
目標達成の方法	職員の募集及び養成を同時に行い、訪問入浴車を1台増車することで運営体制を強化します。

介護・事業課	高齢者支援/障がい者支援
事業名	訪問看護事業
経理区分	公益事業特別会計/訪問看護事業

目的と概要 看護師、理学療法士又は作業療法士が、主治医の指示書に基づいて利用者の自宅を訪問し、利用者の心身の健康管理、医療機器の管理、排せつや栄養の管理、スキンケア、リハビリテーション、ターミナルケア等の医療サービスを提供します。医療的なケアが必要な要介護者が、どんな病気や障害であっても住み慣れた家と地域で、安心して、できるかぎり自立した生活を営めるように医療の面から支援していくことが目的です。事業所は1ヶ所(穂高)で、市内全域をカバーします。

(主なものを1つ)

25年度の目標	医療専門職を確保して新しいチームの基盤を固めます。
25年度の実績	欠員分は新規採用による補充ができました。
主な成果	リハビリ専門職の補充により、デイサービスとの連携や新たなニーズへの対応ができました。
主な課題	夜間・休日の緊急時対応の増加に伴い、常勤看護師の負担が増えています。
26年度の目標	夜間・休日の緊急時対応の体制を強化し、職員の負担を軽減します。
目標達成の方法	現任看護師のカバー範囲拡大(負担の分散)を検討し、併せて常勤看護師1名の補充をします。

介護・事業課	障がい者支援
事業名	相談支援事業（相談支援センターぶれす）
経理区分	一般会計/相談支援事業

目的と概要 障がい者（児）が必要なサービスを適切に利用することにより、安心して地域生活を送ることができるように、本人及び家族の意向や心身の状況等を踏まえ、障害福祉サービスの利用計画を作成し、定期的に見直しを行います（計画相談支援・障害児相談支援）。また、施設に入所中又は病院に入院中の障がい者が、退所（退院）して地域生活に移行できるように必要な相談支援を行い（地域移行支援）、さらに地域生活開始後のフォローも実施します（地域定着支援）。

（主なものを1つ）

25年度の目標	開設1年目として、何よりも利用者及びその家族との信頼関係を築きます。
25年度の実績	専門研修による相談員の技術アップと丁寧な相談対応を心がけました。
主な成果	関係者から一定の信頼が得られ、計画相談支援・障害児相談支援の件数は目標を上回る見込みです。
主な課題	経営状況の厳しさは制度的要因が大きいため、現体制では黒字転換は見込めません。
26年度の目標	事業所規模を適正化し、新体制におけるサービスの質を維持します。
目標達成の方法	職員配置の見直し、新任職員教育、更に業務分析結果に基づいて、相談対応以外の業務の効率化を図ります。

介護・事業課	障がい者支援
事業名	障害者就労移行支援事業（豊科じゃんぷ）
経理区分	障害者就労支援事業特別会計/就労移行支援事業

目的と概要 就職を希望する障がい者に2年間を標準として就労に必要な訓練を行います。訓練プログラムは利用者の希望、適性及び能力等に基づいて個別に作成します。また、利用者の就職活動の支援、職場の開拓、更に就職後の職場定着のための支援も行います。障がい者の「できること」を活かし、必要な支援を受けながら活躍できる職場を増やし、もって障がい者の社会的・経済的自立ができる環境(地域)を創っていきます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	職員の支援技術を高め、役割分担を発展的に見直します。
25年度の実績	ジョブコーチ資格取得者を1名増やし、その資格・技術を活かせるように業務分担を見直しました。
主な成果	ジョブコーチの専門的支援が地元企業に評価され、職場定着支援のみならず、就職先の拡大にも成果がみられました。
主な課題	一般就労に至らない方、訓練を経た後に「福祉的就労」を希望する方及び精神障がいのある方への就労支援を充実させたいと考えます。
26年度の目標	福祉的就労や居場所の確保を含め、すべての利用者に対する的確な就労(進路)支援が実施できるようにしていきます。
目標達成の方法	福祉的就労に向けた訓練プログラムを開発し、試行します。

介護・事業課	障がい者支援
事業名	障害者就労継続支援B型事業（ま・めぞん）
経理区分	障害者就労支援事業特別会計/就労継続支援事業

目的と概要 一般就労が困難な障がい者に働く場を提供するとともに、社会生活に必要な能力向上を目的としたも訓練を行います。事業所は「豊科たんぼぼ」、「堀金かえでの家」に加え、手作り豆腐の製造販売を中心に行う「ま・めぞん」を平成25年4月にオープンしました。将来的には利用者と雇用契約を結び、かつ最低賃金を支払うことが義務づけられた「就労継続支援A型事業所」への移行を目指して事業を展開します。

（主なものを1つ）

25年度の目標	「ま・めぞん」を無事にオープンし、豆腐製造・販売の基盤を固めます。
25年度の実績	職員5名、利用者8名で予定通りオープンし、豆腐販売数は月平均103丁、利用者の平均時給は190円でした。
主な成果	豆腐の製造技術及び販売については概ね軌道に乗せることができましたが、製造数及び工賃の初年度目標達成は難しい状況です。
主な課題	2年目の目標達成には豆腐の販路拡大が必要です。
26年度の目標	豆腐販売数月平均200丁以上、利用者の平均時給400円を下半期に達成します。
目標達成の方法	営業日（土曜日）と商品種類（もめん豆腐）を増やし、地区社協と協力して宅配先を拡大します。

介護・事業課	障がい者支援
事業名	障害者就労継続支援B型事業 (豊科たんぼぼ、堀金かえでの家)
経理区分	障害者就労支援事業特別会計/就労継続支援事業

目的と概要 一般就労が困難な障がい者に働く場を提供するとともに、社会生活に必要な能力向上を目的とした訓練を行います。「豊科たんぼぼ」及び「堀金かえでの家」は、利用者が「できること」を活かし、助け合いながら、クッキー、装飾ろうそく、手芸・工芸品等のオリジナル商品の製造・販売や喫茶コーナー、清掃・洗車及び企業からの受託事業等に従事して収入を得ています。また、「働く」ことだけではなく、各々の「暮らし」を豊かにするための知識やスキルを習得することも目指しています。

(主なものを1つ)

25年度の目標	利用者一人ひとりのニーズを再確認し、支援の方針を統一します。
25年度の実績	利用者全員の「個別支援計画」を作成しました。
主な成果	利用者一人ひとりの「目標」や「支援の方向性」を、利用者と職員の双方で共有できたことにより、両者のモチベーションが高まったと感じます。
主な課題	材料費の高騰や受託事業の減少等により工賃が伸び悩んでいます。

26年度の目標	豊科たんぼぼ: 現在の室内作業を見直してやる気と効率をアップします。 堀金かえでの家: 利用者の「稼ぎたい」気持ちを顕在化させます。
目標達成の方法	豊科たんぼぼ: 室内作業の種類別にマニュアルを整備します。 堀金かえでの家: 利用者向けの学習会等を開催します。

介護・事業課	障がい者支援
事業名	地域活動支援センター事業 (穂高わたぼうし、三郷すみれの郷、明科ふきぼこの家)
経理区分	障害者就労支援事業特別会計/地域活動支援センター事業

目的と概要 障がい者が「身近で安心して過ごせる場」を提供し、障がいの程度に合わせて必要な医療的ケア又は日常生活のケアを受けながら、作業活動、余暇活動及び地域との交流等を行う事業所です。利用者の「できること」を活かし、「やりたいこと」を尊重して、仲間と楽しく豊かな時間をつくるとともに、生活技能や社会性の習得、さらには社会参加の機会を提供することが目的です。また、手工芸品等の自主製品の販売収入は工賃として利用者に支給されます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	精神疾患を抱える人の支援についての知識・技術を高めます。
25年度の実績	当該テーマの研修会を開催しました。
主な成果	研修会には職員の9割以上が参加し、基本的な知識や支援の方法を職員間で共有することができました。
主な課題	地域社会との交流を拡充していきたいと思えます。
26年度の目標	地域社会との交流や社会参加の機会を拡充します。
目標達成の方法	地域福祉課との連携を強化し、地域のイベント等へ積極的に参加します。

介護・事業課	障がい者支援
事業名	障害者生活介護/児童発達支援/放課後等デイサービス事業 (ほっぷライフ他)
経理区分	一般会計/障害者生活介護事業

目的と概要 介護が必要な障がい者(児)を対象としたデイサービスで、「障害者生活介護」は 18 歳以上、「児童発達支援」は未就学児童、「放課後等デイサービス」は就学中の障がい児が対象です。「ほっぷライフ」ではこれらのサービスを一体的に運営しています。看護師配置を手厚くし、かつ介護スタッフの専門性を高めることにより、医療的ケアが必要な重度の障がい者(児)を積極的に受け入れています。また、安全を確保した上で「ほっぷライフならでは」の楽しい活動や外出等のメニューを揃えています。

(主なものを1つ)

25年度の目標	職員の支援技術を更に向上させます。
25年度の実績	定例会及び毎日のミーティングに「学習」の機会を取り入れました。
主な成果	利用者1人ひとりの障がい特性及び具体的な支援技術についての理解が深まりました。
主な課題	利用者の家族から、「ほっぷライフ」におけるショートステイ(短期入所)の要望が増えてきています。
26年度の目標	ショートステイの開設に向けた準備をします。
目標達成の方法	アンケート結果等に基づき、25年度中からショートステイの開設に係る検討を開始します。

介護・事業課	障がい者支援
事業名	障害者居宅介護事業<障害者(児)ホームヘルプサービス>
経理区分	一般会計/障害者居宅介護事業

目的と概要 障がい者(児)を対象としたホームヘルプサービスで、市内 3 か所(北部・南部・東部)のホームヘルプステーションにおいて、介護保険の訪問介護事業と一体的に運営しています。相談支援員や行政担当者は勿論、社協の地域福祉課とも連携し、利用者及びその家族の生活課題を「つかみ」、課題解決へ「つなぐ」ことにより、「どんな障がいがあっても、安心して、その人らしく暮らせる地域づくり」に貢献します。

(主なものを1つ)

25年度の目標	新設した「相談センターぶれす」と連携してサービスの質を高めます。
25年度の実績	「相談センターぶれす」の相談支援員と情報交換しながら個別サービス計画を見直しました。
主な成果	相談支援員との連携・協働によってアセスメントの幅が広がり、個別支援計画の精度が高まりました。
主な課題	「地域生活支援」という視点からは、社協内外のネットワークの活用が不十分であると考えます。
26年度の目標	社協内外の社会資源を把握し、関係者及び関係機関との連携を強化することにより利用者へのより良い支援につなげます。
目標達成の方法	研修会を開催して全体で学ぶとともに、プロジェクトチームで必要な情報をまとめ、活用できる形にします。

介護・事業課	その他の事業/高齢者支援/障がい者支援
事業名	福祉有償運送サービス事業（STS）
経理区分	一般会計/生活支援介護予防事業/(外出支援)

目的と概要 介護保険制度で認定された要介護者及び障がい者の内、非課税者を対象とした通院支援を主な目的とし、認定研修を修了したホームヘルパーが運転(病院と自宅の送迎)と必要な介助をセットで行うサービスです。安曇野市福祉有償運送運営協議会において決定された運行規則に従って運営されており、現在は明科地区の対象者に限定して実施し、利用目的は透析通院の介助が最多となっています。

(主なものを1つ)

25年度の目標	人件費を含めた必要経費を精査し、事業運営の実態を明確にします。
25年度の実績	空車回送時の人件費処理等を見直し、コスト計算の精度を高めました。
主な成果	当事業収支の実態把握ができました。
主な課題	目的との整合性及び妥当性等、当事業のあり方を再検討する必要があります。
26年度の目標	当事業のあり方を再検討します。関係者と協議し事業目的、実施地域、運営主体等のあるべき姿を検討します。
目標達成の方法	安曇野市及び関係者との協議の機会を設け、目的、実施地域及び運営主体等について協議します。

介護・事業課	その他の事業/受託事業/介護者支援
事業名	家族介護者交流事業（介護者リフレッシュ）
経理区分	一般会計/生活支援介護予防事業

目的と概要 市内の家庭介護者を対象に、介護者相互の交流等を通して情報交換やリフレッシュができる機会を提供します。25年度までは年1回、全市を対象に実施してきましたが、より身近な地域において当事者主体で継続できるような形をつくっていきます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	より身近な地域で継続できる会にしていく準備を整えます。
25年度の実績	地域福祉課と合同で検討し、対象者のアンケート調査を実施しました。
主な成果	アンケート調査の結果、「保養的な内容」と「介護者同士の身近な交流」の両者を希望していること等がわかりました。
主な課題	潜在的な対象者(当事業に参加できない・したくない方等)の要望・ニーズの把握が必要です。
26年度の目標	旧来の「日帰り保養交流会」に加え、支所等より身近な場所での交流会が住民主体で開催されます。
目標達成の方法	身近な場所での交流会は地域福祉課との協働により、原則的には住民の自発的な活動となるよう支援します。

介護・事業課	その他の事業/地域貢献/人材育成
事業名	初任者研修講座の開催
経理区分	公益事業特別会計

目的と概要 全国的に介護を担う専門職が不足する中で、平成 24 年度まで継続開催してきた「訪問介護員(ホームヘルパー2 級)養成講座」は、25 年度より介護専門職のキャリア体系整備の一環として「介護職員初任者研修」となり、当会においても開催しています。市内にお住まいの方で、資格取得後に市内の介護サービスに従事する意志のある方を対象に、主に社協の職員が講師を務めて運営し、介護を担う専門職の育成に貢献します。

(主なものを 1 つ)

25 年度の目標	「介護職員初任者研修」の初回開催をスムーズに行います。
25 年度の実績	受講生 13 名、修了者 12 名でした。(社協内講師 22 名及び外部講師 2 名による延 119 時間の講義と当会の 8 事業所による実習指導)
主な成果	近隣社協と情報交換を行い、スムーズに開催できました。修了生の内、3 名が当会介護保険事業所へ就労しました。
主な課題	修了者の追跡調査(市内の介護サービスに従事できたか)がなく、成果の詳細が不明瞭です。
26 年度の目標	一人でも多くの受講生を介護職への就労に結び付けたいと考えます。
目標達成の方法	講師陣の介護経験に裏付けられた実践的かつ質の高い研修内容により介護職の魅力をたつぷりと伝えます。

介護・事業課	その他の事業/介護予防・生活支援事業
事業名	介護予防・生活支援事業
経理区分	一般会計/法人運営(介護・事業課)/地域福祉事業

目的と概要 できる限り住み慣れた地域で、最期まで尊厳をもって自分らしい生活を送るため、「地域包括ケアシステム」を構築していくことが求められています。が、生活支援と介護予防は重要な構成要素です。これを地域の実情に合わせ、効果的かつ効率的に実施できるよう、予防通所介護と予防訪問介護が平成27年度から段階的に地域支援事業に移行することが厚労省から示されています。地域の力を活かした社協らしい事業展開、地域への働きかけについて、方向性を定め、提案します。

(主なものを1つ)

25年度の目標	社協としての基本方針(取り組みの方向性)を決定します。
25年度の実績	基本方針を策定し、プロジェクトチームを発足しました(いずれも2月)。
主な成果	介護・事業課及び地域福祉課の協働プロジェクトとしてスタートできました。
主な課題	市と情報交換・相談をしながら進めて行く必要があります。
26年度の目標	8月末までに社協提案書(原案)を策定し、市と協議します。
目標達成の方法	工程表に基づき、プロジェクトチーム内の分担作業を進めていきます。

総務課

25年度実績の内容は、平成26年2月末現在のものです。

社協^{マン}人と社協走りも覚えてね！

「社協人」は、めざすべき職員像（人材育成システムより）、「社協走り」は、車両事故防止戦略（労働安全衛生マネジメントシステムより）です。



総務課	法人全体/長期計画の策定
事業名	「将来構想と10カ年戦略」の策定
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 当会の理念「支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」の実現に向けた将来構想(長期目標)を描き、長期目標の達成に向けた継続性・実効性のある短期・中期計画を策定・実行し、PDCAサイクルを積み重ねていく、そんなスタイルを確立していくことが目的です。職員のアイデアを反映させながら、課長会議で原案を策定していきます。

(主なものを1つ)

25年度の目標	職員のアイデアを取り入れて、基本構想と戦略テーマを策定します。
25年度の実績	すべての係・事業毎に職員全員参加によるワークショップを開催しました。
主な成果	ワークショップでは計画策定に反映すべき沢山のアイデアが生まれたと同時に、各々のテーマで「将来」を見つめる良い機会となりました。
主な課題	課長会議では「既存事業の振り返りと展開」に時間を費やし、丁寧な検討が出来た反面、策定スケジュールが遅延しました。
26年度の目標	上半期終了(9月末)までに原案を策定し、年度内に経営会議に諮ります。
目標達成の方法	課長会議で策定した原案を、下半期に外部のコンサルティングを受けて修正します。

総務課	人事/ワークライフバランス
事業名	ワークライフバランスのとれた職場の実現
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 職員ひとり一人が、やりがいを感じながら仕事の責任と役割をきちんと果たす一方で、子育て・介護の時間や家庭、地域、友人、趣味等に係る個人の大切な時間が確保できるように努め、仕事(ワーク)と生活(ライフ)の双方の調和を目指します。このような職場の実現により、あらゆるライフステージの職員が無理なく仕事が続けられて、より豊かな人生を営むことができること、ひいては当会の発展・地域福祉の活性化に、より貢献できることが目的です。

(主なものを1つ)

25年度の目標	総合職の残業を月平均 10 時間未満にします。
25年度の実績	4 月～1 月の残業は月平均 8.76 時間でした。
主な成果	職員相互の努力、人員配置の適正化等により目標達成見込です。
主な課題	残業時間に事業所間及び職員個人間の格差がみとめられます。
26年度の目標	事業所間及び職員間における残業時間の格差を縮小します。
目標達成の方法	残業実態調査を毎月実施し、事業所別の対策を強化します。

総務課	人事/人材育成
事業名	人材育成の方針及びシステムの策定
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 社協の理念実現、更にはその存続すらも、職員ひとり一人の行動のあり方に懸っているといっても過言ではありません。「支えあい 誰もが安心して暮らせる福祉のまち 安曇野」の実現のために必要な人材を育成し、効果的なチームプレーが展開できる環境を整えていくことが法人の最重要課題です。ここでは「めざすべき職員像=社協人^{マン}」や「求められる能力・態度」を明らかにし上で、職員が自ら、そして互いに成長できるような職場風土を形成していくことが目的です。

(主なものを1つ)

25年度の目標	人材育成方針の策定と教育体系の見直しに向けた検討をします。
25年度の実績	検討の結果、「人材育成システム 運用マニュアル」を策定しました。
主な成果	「人材育成システム 運用マニュアル」は計画より1年早く策定できました。
主な課題	まずは、「人材育成システム 運用マニュアル」を職員が理解・納得することが必要です。
26年度の目標	「人材育成システム 運用マニュアル」を管理監督者が理解すること。
目標達成の方法	管理監督者を対象に、システムの「理解」及び「実行」のための研修会を開催します。

総務課	人事/就業規則
事業名	就業規則の見直し
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 信頼と安心感の高い人事制度の確立を目指しています。厳しさを増す経営環境の中で、持続可能であり、かつ職員の納得性の高い制度や労働条件を整えていく必要があります。今回は、「職員満足度調査」の結果を尊重した上で、①人件費の伸びを抑えること、②経営状況の変動に対応できること、③雇用に対する不安感を解消すること、④職員相互の協力体制・チーム力を強化すること、⑤職員のやる気・満足度をアップすること等を目的として職員区分・賃金体系等を見直します。

(主なものを1つ)

25年度の目標	就業規則の見直しに向けた課題を抽出・分析します。
25年度の実績	「職員満足度調査」を実施しました。
主な成果	「職員満足度調査」等により就業規則見直しのポイントが示唆されました。
主な課題	人件費の抑制、職員の満足及びサービスの向上を並行して実現していくことが求められます。
26年度の目標	年内に就業規則の見直し(案)を策定します。
目標達成の方法	「職員満足度調査」「経営管理データ」等を資料に素案を作成し、外部専門家のコンサルティングを経て原案を策定します。

総務課	財務/新会計基準
事業名	新会計基準への移行準備
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 平成 23 年 7 月 27 日に厚生労働省から「社会福祉法人会計基準の制定について」が通知され、新たな基準による会計処理が平成 24 年 4 月 1 日から適用されました(猶予期間は平成 27 年 3 月 31 日まで)。当会では、平成 27 年 4 月 1 日からの適用に向けて、26 年度中に移行準備を完了させます。

(主なものを 1 つ)

25 年度の目標	新会計基準移行関連の研修会に参加し、概要を把握します。
25 年度の実績	研修会に2回参加しました。
主な成果	新会計基準の概要を把握し、当会における適用のイメージができました。
主な課題	新会計基準移行スケジュール表を 25 年度中に作成する必要があります。
26 年度の目標	26 年度中に新会計基準移行準備をすべて完了します。
目標達成の方法	経理規則改定も含め、移行スケジュールに沿って確実に進めます。

総務課	情報マネジメント/情報発信
事業名	ホームページの見直し
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 当会のホームページは社協合併の翌年、平成 18 年度に開設しました。平成 20 年度のリニューアルを経て、26 年度には 8 年目となります。インターネットを介した情報のやりとりが早い速度で進化し続ける時代の中で、社協と地域の住民を「つなぐ」大切なツールとして、ホームページのあり方を常に見直していくことが求められています。

(主なものを 1 つ)

25 年度の目標	「見たい・知りたい」情報が簡単に探せるように工夫します。
25 年度の実績	トップページをリニューアルしました。
主な成果	トップページからの「見たい・知りたい」情報へのアクセス時間が短縮しました。
主な課題	内容が古いまま更新されていないものが散見されます。
26 年度の目標	ターゲットの裾野を拡げるため、まずは社協関係者・利用者のホームページへの関心を高めます。
目標達成の方法	画像のアップを増やし、かつ掲載情報の更新期間を短縮します。

総務課	リスクマネジメント/安全衛生
事業名	労働安全衛生マネジメントシステムの推進
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

目的と概要 職員の安全と健康は当会の最優先すべきテーマです。当会の「労働安全衛生マネジメントシステム」及び当該システムの運用マニュアルは、平成25年10月に運用をスタートしました。その目的は、すべての職員がルールを守り、互いに協力して、安全衛生活動を自主的に展開することにより、労災ゼロ、心とからだの健康の保持増進、ひいては誰もが気持ち良く働くことができる職場環境を実現することです。

(主なものを1つ)

25年度の目標	当会の安全衛生にかかる管理システム導入の準備をします。
25年度の実績	「労働安全衛生マネジメントシステム 運用マニュアル」を策定・施行しました。
主な成果	計画より1年前倒しで策定・施行し、職員研修を実施しました。
主な課題	当該システムの運用を継続的に推進していく必要があります。
26年度の目標	「労働安全衛生マネジメントシステム」の運用を推進します。
目標達成の方法	実施状況チェック表等を活用し、マニュアルを確認しながら取り組みます。

総務課	その他
事業名	検診・研修・広報・役員会等
経理区分	一般会計/法人運営(本所)

検診等の実施予定			
検診等	実施期間・回数	会場	対象
基本健診	8月(5回)	本所・各支所	全職員
子宮がん検診	7/17、8/27		女性職員
乳房検診	8/26、9/5、9/11		女性職員
インフルエンザ予防接種	11月～12月(5回)		全職員
産業医の面接指導	12月		該当者

法人内職員研修の開催予定(総務課主催のみ) ※内容は変更される場合があります。			
研修名	開催日	会場	対象
新任職員研修	4/1、10/1	堀金支所	新任職員
新年度研修	4/14～18	各支所・ふれあいホール	全職員
人材育成システム	5月	堀金支所	主任以上
リーダーコミュニケーション研修	6月	堀金支所	
OJT研修	7月	堀金支所	
コンプライアンス研修	9月	本所	
人事管理研修	12月	本所	

広報誌等の発行予定	
種類	発行予定
社協だより あづみん (10頁版)	偶数月 51～55号
あづみん お知らせ版	奇数月
ポケット会内報 あづみんの「わ」	年6回

役員会等の開催予定		
会議名	開催日	会場
理事会	年3回～4回	本所
評議員会		堀金支所
経営会議	年10回	本所

